
鳴滝 ザ・パラレルストーリー - もう一人の鳴滝 -

矢部野 和麻呂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鳴滝 ザ・パラレルストーリー - もう一人の鳴滝 -

【Nコード】

N8161S

【作者名】

矢部野 和麻呂

【あらすじ】

ディケイドに出てくる鳴滝とはまた違う鳴滝のお話・・・

プロローグ（前書き）

ついに作ってしまった・・・

プロローグ

ーある世界ー

鳴滝は、空間を捻じ曲げ、銀色のオーロラを出し、その世界に入る

そこから出たのは住宅街だった

そして鳴滝は歩き始め、ある家の裏側の塀の前に立ち止まる

そこには、とても大きな『穴』があった

だがその『穴』の先は、色々な色の空間がある

それは時空の穴、何かの拍子で世界と世界が繋がり、その穴から違う世界の生き物などが出てくる物だ

すると穴が膨らみ始め、緑色の怪人が出てくる

「ギョルルルル・・・」

「・・・、ワームか」

鳴滝はその穴の先は『カブトの世界』と判断する

するとワームが鳴滝に襲いかかる

鳴滝はそれを避け、右腕を空高く上げる

そして一気に振りおろす

するとワームの体が砂になりはじめる

「ギョルルル!？」

そして完全に砂になり、消滅する

「・・・むうん・・・!」

鳴滝はワームが消滅したのを確認すると穴に手を翳し、念じる

すると穴が段々閉じ始め、つには完全に閉じてしまう

「・・・、次の世界へ行くか」

鳴滝は空間を捻じ曲げ、銀色のオーロラを出し、その『世界』を出た・・・

この鳴滝は、ディケイドに現れる鳴滝とは違う並行世界の鳴滝だった

本来鳴滝は世界と世界の融合、または消滅を防ぐために現れた存在である

その世界と世界の融合となる原因を消滅、または元の世界に送り届ける

それが鳴滝の指名だった

しかしディケイドに出てくる『鳴滝』は、ディケイドを全ての世界の敵を認識してしまい

ディケイドを消滅させようとするが、ついには自分自身が世界を消滅させる存在になってしまった

そしてこの『鳴滝』は本来の任務を果たし、不眠不休で世界の融合、または破壊を止めていた

そしてもう一つの目的があった

- それは本来の任務を忘れた『鳴滝』の消滅、という目的もあった・

プロローグ（後書き）

最後の文章は、自分の考えた鳴滝を出してみたものです

ディケイドに出てくる鳴滝とはまた違う鳴滝・・・

『鳴滝』との対面とディケイドに救出

ーショッカーの基地ー

「諸君、これまで我々が支配した世界はもうすぐ1000を超える」

眼帯をした黒い男がショッカーの怪人達を前に演説をしていた

「しかし！

本来もう1000は超えている筈だった・・・

何故越えられない？、何故ここまで遅い！？

その理由はこいつだ！」

黒い男の後ろにあるモニターが写る

そこにはマゼンダ色の線のようなものが多いライダーがいた

そのライダーは・・・

「このライダーはみなも良く知っておろう

・・・仮面ライダーディケイドだ！！」

黒い男は憎悪を目と心に宿し叫んだ

そして怪人達が雄叫びを上げる

「我々の敵！

我々の壁！

その最大の難問であるのがコイツだ！」

黒い男はさらに続ける

「我々はコイツを倒さなければならない！

我々の理想とする世界を創るには、この悪魔を世界から排除しなければならぬ！

そして私、ゾルは言おう！

コイツこそ、世界にとって恐れるべき……悪魔だ！！！！」

うおおおおお！！！！と、さっきよりもとても大きな雄叫びをあげた

「我々はコイツを倒さなければならない！

ただ、コイツは世界を渡り歩く

その世界を……見つけ出せええええええええええ！！！！！！」

ゾルがそう言うと同時に

世界の外にまで届くような雄叫びがあがった

＊

ーゾルの自室ー

「・・・来たか」

するとゾルの空間がねじ曲がり、鳴滝が現れる

「ゾル、もうディケイドを消そうとするのはやめろ」

「何を言う！、ディケイドは悪魔だ！

世界の破壊者だ」

「違う！

確かにディケイドのもたらした物はかなりのものだが

彼は自分が破壊した物を自分で修復する！」

「確かに奴は世界を修復させた事もある

だが、ライダー大戦の時はどうだ!?

奴のせいで世界の融合が起き、危うく世界が消滅するところだった」

「グッ、だが「そして」」

「そしてこのショッカー、・・・大ショッカーを作ったのもディケイドだ」

「そつ、それは」

鳴滝は何も言い返せなくなる

「ふんっ、結局ディケイドは、世界の悪魔でしかない」

「だっ、だが彼はショッカーを自分で壊した!」

鳴滝は言い返すが

「だがそのショッカーを作ったのもディケイドだ!!」

彼が創ったりしなければ私もこんなことはしない!!」

するとワームやファンガイアが現れ

鳴滝を囲む

「やれ!」

「イイッ!」

戦闘員と同じ声を上げ、鳴滝に襲いかかる

「クッ」

鳴滝は真上の空間を捻じ曲げ、銀色のオーロラを一瞬で作りそこを去ったが、ある怪人が刃物を投げ、肩と右足に当たる

「グッ！」

鳴滝はうめき声を上げるが、その世界から去った

*

ー光写真館ー

ディケイド一行はある世界に言っていた

「まったく、スーパーショッカーってやらか出たっていうのに

まだ世界を旅しなきゃなんないのかよ」

「土君、愚痴らないでください、ショッカーを倒すには

世界を旅するしかないんですよ」

「そうだよ土

それに、世界を救う手立てにもなるんだから」

上から順に、土、夏海、ユウスケが言う

「それじゃ、行つてきまーす」

「いつてらっしゃーい」

栄次郎が答え、3人は出てゆく

出てつた瞬間

すぐ隣の脇道に人の気配を土は感じた

「土君、どうかしましたか？」

夏海は土に聞く

「いや・・・少し待ってる」

土はそう言い、脇道に入る

「「？」」

夏海とユウスケも追いかける

「な「え「うそ!？」」

そこには、
鳴滝が倒れていた

『鳴滝』との対面とディケイドに救出（後書き）

みじけえ・・・

すみません

ディケイドとの対面

「はっ！」

鳴滝は、あるソファの上で起きた

「ここは・・・」

「おきたか」

鳴滝は声が聞こえた方を見る

そこには、光写真館のオールスターが集まっていた

「ディケイド・・・、貴様が救出してくれたのか」

鳴滝はなるべくゾルと似たような口調で話す

「勘違いするな」

お前からスーパーショッカーの事を聞こうとしたただけだ」

士はそういつと憎悪を含んだ目で鳴滝を見る

「・・・」

鳴滝もなるべくゾルと同じようにして睨む

「ところで、なんであんなところに倒れていたのですか？」

土の隣にいた夏海が鳴滝に聞く

「貴様たちには関係のないことだ」

鳴滝はそう言つて帽子とコートを取り着ようとするが

「まあまあ、お茶とヨウカンでも食べて、落ち着きなさい」

そこにお盆の上にお茶とヨウカンを乗せて持っている栄次郎が近寄ってくる

「おいじいさん、こんな奴に渡すもんなんてねえだろ」

土はそういうが

「でもまだ怪我しているし、一応お客様なんだから」

「だからつてよ・・・」

「まあまあ、いいじゃん土」

そこにユウスケが割つて入り、土をなだめる

「チッ」

土は舌うちをしてヨウカンを食べる

「・・・、私はいい」

鳴滝は出て行こうとするが

ガラン「やあ、つか・・・鳴滝さん・・・」

玄関から海東が入ってきて、鳴滝と顔を合わせる

「デイエンド・・・」

「・・・」

二人はしばらく睨みあっていたが海東が何か分かったようにうなずき、笑う

「・・・なるほどねえ・・・ククッ」

海東はそう言って道を開ける

「どういっつもりだ？、海東」

「だって彼に何を聞いても無駄だと思うよ」

「・・・」

鳴滝は黙って出てゆく

「何？、どういうことだ」

「フッフ、おもしろそうだし、言わないでおこう」

「お、おいまちやがれ！」

海東も出てゆき、土は追うが・・・

「・・・さらばダイケイド」

「じゃあ、この世界にはお宝の匂いがしないし

・・・また次の世界で会おう、土」

二人とも銀色のオーロラを潜り抜け去ってゆく

「いったいなんだったんでしょう？」

あの鳴滝さん」

「なんかいつもの鳴滝さんと違った気がするけどね」

「知るか、鳴滝は鳴滝だろ」

3人はそう言って写真館に戻る

ディケイドとの対面（後書き）

短い・・・短すぎるぞ！フラッグファイター！

- ・・・・すみません、最近ダブルオーのグラハムさんにハマってて・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8161s/>

鳴滝 ザ・パラレルストーリー - もう一人の鳴滝-

2011年10月7日03時09分発行